

保護者の皆さま

神奈川県立横浜旭陵高等学校  
校長 小坂茂生

## 令和3年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)

初春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、神奈川県では例年、授業改善の取組みに資するものとして年に2回「生徒による授業評価」を実施しておりますが、今年度の本校における第1回(前期)の実施結果がまとまりましたので、次のとおりご報告申し上げます。

## 1 アンケート設問

大項目	番号	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	3	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

アンケートの設問は、県の共通の設定項目である上記の7項目について問が設定されています。その各項目に対して、「4かなり当てはまる」「3ほぼ当てはまる」「2あまり当てはまらない」「1ほとんど当てはまらない」の4段階で評価し、回答します。

## 2 調査対象者数

実施したアンケートの教科毎の対象者数は次のとおりです。

教科	国語	地歴・公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	総合
人数(人)	807	1072	665	698	814	527	687	367	343	631

## 3 調査結果についての分析(数値は全体平均)

全ての設問で肯定的評価である3, 4の評価の割合が高い。特に、設問1は89%、設問3は88%で肯定的評価となっており、「授業のねらいが明確であり、振り返る機会が充実した授業」が行われているという評価を得ることができました。なお、「他者の考えを知り、自分の考えを広げる」(設問5)は肯定的評価が84%であり、例年に比べ高い評価を得ることができました。引き続き、授業の中で協働し、自分の考えを深める授業を実践していく必要があると考えます。今後、これまで以上に授業改善に努めてまいりたいと思います。

## 4 今後の授業改善に向けて

今年、本校は「ICT利活用授業研究推進校」指定事業第Ⅱ期の指定を受け、3年目になりました。インターネットを利用できる環境が整備され、ICT機器を活用する授業により、生徒の興味・関心を高める研究を各教科で進めていますが、今回の授業評価の結果を受け、より一層生徒の主体性を意識した授業展開から学習内容の定着につながるように工夫を重ねてまいります。

問合せ先  
副校長 川島  
電話 045(953)1005

教科	評価	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
国語	4	46.8%	46.3%	46.5%	41.1%	41.0%	41.4%	42.8%
	3	42.5%	44.2%	45.1%	50.2%	48.0%	47.8%	47.5%
	2	9.0%	7.7%	7.2%	7.3%	9.7%	9.2%	8.7%
	1	1.6%	1.7%	1.2%	1.4%	1.4%	1.6%	1.1%
地歴・公民	4	43.3%	39.6%	38.1%	40.0%	38.0%	36.9%	41.4%
	3	47.6%	46.6%	49.3%	48.3%	48.3%	49.3%	46.1%
	2	7.6%	12.2%	11.4%	10.8%	11.8%	12.4%	10.5%
	1	1.6%	1.5%	1.2%	0.8%	2.0%	1.4%	2.0%
数学	4	48.4%	40.9%	45.9%	49.5%	38.0%	40.8%	42.0%
	3	40.8%	43.9%	42.1%	39.2%	45.3%	45.1%	45.3%
	2	8.4%	12.2%	10.1%	9.8%	13.7%	12.2%	9.8%
	1	2.4%	3.0%	2.0%	1.5%	3.0%	2.0%	3.0%
理科	4	42.4%	33.2%	38.5%	40.3%	32.8%	36.1%	39.3%
	3	48.0%	48.4%	48.0%	46.3%	47.3%	48.6%	47.4%
	2	8.2%	16.2%	11.5%	11.3%	17.0%	13.3%	10.7%
	1	1.3%	2.0%	1.9%	2.0%	2.7%	1.9%	2.4%
保健・体育	4	50.2%	46.4%	48.3%	54.7%	46.3%	46.9%	48.0%
	3	42.4%	44.2%	44.6%	39.6%	43.1%	45.2%	43.2%
	2	6.5%	7.6%	6.6%	5.5%	9.6%	7.5%	8.0%
	1	0.9%	1.7%	0.5%	0.2%	1.0%	0.4%	0.7%
芸術	4	47.2%	38.1%	43.6%	48.6%	37.4%	39.5%	44.8%
	3	45.0%	48.2%	47.2%	43.8%	46.7%	48.6%	45.9%
	2	5.7%	11.8%	8.2%	6.5%	14.4%	11.0%	7.4%
	1	2.1%	1.9%	0.9%	1.1%	1.5%	0.9%	1.9%
外国語	4	41.0%	37.4%	38.4%	41.5%	34.1%	36.8%	38.7%
	3	47.3%	49.2%	47.9%	43.7%	47.2%	47.3%	44.8%
	2	9.0%	10.5%	11.2%	12.2%	14.8%	12.2%	13.7%
	1	2.6%	2.9%	2.5%	2.6%	3.9%	3.6%	2.8%
家庭	4	56.4%	51.5%	50.7%	60.5%	52.0%	52.9%	56.4%
	3	34.6%	38.1%	41.1%	32.2%	36.5%	37.6%	36.0%
	2	6.5%	9.0%	6.0%	5.4%	9.0%	7.9%	6.5%
	1	2.5%	1.4%	2.2%	1.9%	2.5%	1.6%	1.1%
情報	4	41.7%	31.2%	35.6%	50.4%	29.2%	38.2%	42.3%
	3	39.7%	39.9%	45.8%	38.8%	45.8%	43.4%	42.9%
	2	14.6%	22.7%	15.7%	7.9%	21.0%	14.3%	12.5%
	1	4.1%	6.1%	2.9%	2.9%	4.1%	4.1%	2.3%
キャリア	4	36.9%	36.1%	37.2%	40.3%	39.3%	37.9%	35.2%
	3	46.3%	47.2%	48.5%	46.6%	46.0%	47.1%	49.9%
	2	13.0%	13.6%	11.9%	10.1%	12.5%	12.7%	12.2%
	1	3.8%	3.0%	2.4%	3.0%	2.2%	2.4%	2.7%
全体平均	4	45.1%	40.3%	42.1%	45.5%	38.8%	40.2%	42.5%
	3	44.2%	45.6%	46.3%	43.9%	45.9%	46.7%	45.4%
	2	8.6%	11.8%	9.9%	9.0%	12.9%	11.2%	10.1%
	1	2.1%	2.3%	1.6%	1.6%	2.3%	1.8%	2.0%

## 6 教科での分析と改善に向けて

教科	授業評価の結果から読み取れる課題など	今後の授業改善に向けて
国語	<p>○全ての項目で3, 4の評価が80%以上を占めている一方で、10%前後の生徒は現状の授業に満足していないことも分かった。特に設問1, 5, 6は低評価の割合が高く、ここから以下のことが課題として挙げられる。</p> <p>○授業のねらいや振り返りの機会が少なく、学習内容の整理が困難になっている。</p> <p>○他者との情報や意見の共有が少なく、知識の発展や表現力の向上につながっていない。</p> <p>○教員の一方的な授業色が依然として強く、生徒の主体的な学びの場を確保できていない。</p>	<p>○生徒にどのような力を身に付けさせるのか、どのような方法で行うのかを、教員側が現状より一層明確に計画を立てる必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い制限も多い中ではあるが、生徒が主体的、能動的に授業に取り組む工夫を取り入れることが求められている。グループクラスルーム、ロイロノート、視覚教材等、活用できるものを最大限に活かした授業作りや、教員同士での定期的な授業見学を行い、教科として改善に向け努力をしていきたい。来年度より新教育課程に移行していき、国語科は特に教育の見直しが必要とされているため、今回の生徒による授業評価は根本的などころから授業作りを見直していく良いきっかけとなった。</p>
地理・歴史・公民	<p>○全ての科目において、1～7の設問で3, 4の評価が概ね80%以上を占めている。</p> <p>今年度は、対面型の授業をすることが少ない状況であるため、設問2, 5の評価が下がることが予想されていたが、結果はほぼ全ての科目で3, 4の評価が80%を超えていた。この結果は、対面での授業展開をすることが少ないものの、各教員がICT機器を活用し、意見共有の時間を確保することができていたことが要因であると考えられる。</p>	<p>○設問4の評価が教科内全体で低い評価が付いていた。單元ごとに振り返りの時間を確保することで、生徒に身に付いたことの実感をさせることができるような工夫をする。</p> <p>○設問2, 5は、引き続きICTを活用することで、対面授業でなくても他者の意見や考えを知る機会を確保する。</p> <p>○授業時数自体が少なくなってしまうため、生徒が身に付けるべき知識、技能を精査し、決められた時間の中で最大限実生活に結びつくような力の育成を目指す。</p>
数学	<p>○設問2と設問5の評価が比較的に低い。</p> <p>○設問6の評価が低い。実生活との結びつきが弱いのではないかな。</p>	<p>○問題を解く過程の考え方や理由を述べさせることで、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めることを図る。また、オンライン等を活用して、考え等の共有を図る。</p> <p>○数学の有用性を実感させる授業の工夫をする。</p>
理科	<p>○設問2, 5の評価の1, 2の割合が他と比較して高い傾向にある。</p> <p>○自らの考えを深めたり、まとめるための授業づくりが必要である。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で、実験結果の発表や生徒による発言の機会を少なくしたことが原因であると考えられる。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上での授業づくりは今後もしばらく続くものと考えられるので、ICT機器を活用し、生徒の活動を主体的にさせるための授業を計画していく必要がある。</p>
保健体育	<p>○1年次はどの設問においても例年より4の評価の割合が非常に高く、充実した学習活動をしていると思われる。反面、他の年次と比べると2の評価の人数が多く、二極化している。</p> <p>○年次が進むにつれて評価の数値が向上しているが、相対的にみると設問2の数値が低い。</p> <p>○保健体育に限らず、全体的に例年と比べ生徒の授業に対する満足度(3, 4の評価をつける)が高くなっている。</p> <p>○細かく見ると、他者の考えや自らの考えを広げるといったところが、他と比べて評価が低い。</p>	<p>○1年次は一人ひとりの様子を観察し、必要な助言や手段を講じる。</p> <p>○2, 3年次は設問2の数値を受けて、もっと自分の考えを発信したり記述したりする機会を増やし、学習した内容をもっと広げ深めるようにする。</p> <p>○生徒同士での会話を控えるように言われている中で、他者の考えを知る、自らの考えを広げるといったところは、ICT機器を活用することで意見や考えを共有していくことができる。</p>

芸術	<p>○項目 2, 5, 6 の評価が低い。これは芸術科に限ったことではなく、全教科に同じ傾向が読み取れる。この傾向は、生徒たちが他者の考えを聞き、それをもとに自分で考えるということが、やや不得手であることを示している。授業を実施するにあたって、このことを踏まえて辛抱強く指導しているが、授業時間の枠の中では困難なことが多い。したがって、その苦手意識から生徒たちの評価が低くなってしまうと考えられる。</p>	<p>○他者の考えを知り、自分で考え、まとめる、ということは大切である。生徒がそのような課題を苦手だと感じていても、繰り返し取り組んでいくことが大切である。</p> <p>○上記の課題について、教職員の個人の努力では限界があるので、教育行政としても次のことが必要ではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業が実現できる人員の配置。</li> <li>・半年ごとの授業評価ではなく、長期的な取り組みで授業改善を考える。</li> <li>・教職員が授業の研修に取り組めるように、それぞれの持ち時間にゆとりをもたせ、併せて授業以外の事務仕事を削減する。</li> <li>・教職員の最新の教育スキルが実施できるように環境整備に努める。例えば、情報機器を活用する授業が重なった場合、いずれの授業でも実施できるような機器や設備があれば、安定した授業計画が立てられる。</li> </ul>
外国語	<p>○全ての項目で 3, 4 の評価の割合が高い。ただ、1, 2 の評価が全体の約 10~18%ほど占めている。特に、設問 5 に対する 1, 2 の評価の割合が高い。コロナ禍の影響でペアワークやグループワークができない現状で、もっと言えば、オンライン授業を実施している現状では、なかなか他者の考えを知ることは難しい。</p>	<p>○教科としては、周りの人とある議題を話し合う活動をあまり取り入れていなかったことが反省点としてある。これからはクラスルームを用いて、ある 1 つのテーマに対する意見を集約し、まとめたものを再度クラスルームに載せることで、他者の意見を知る場としたい。これは、オンライン授業を実施している現状でも通用する。</p>
家庭	<p>○教科としては、設問 3 の評価が最も低い。授業で扱う内容について、生徒が自らの生活と結びつけて考えることのできる機会が少ないことが要因であると考えられる。</p> <p>○設問 5 においては、他の設問と比べ、評価 1, 2 の割合が高く、授業の中で周りの生徒の考えを共有する機会が少なかったことが要因であると考えられる。</p> <p>○科目ごとの評価については、基礎科目と専門科目を比較したところ、専門科目では自ら履修選択して学んでいることから、評価 4 の割合が高く生徒が学びを実感していることが伺えるが、基礎科目では、評価 4 の割合が低い傾向にあり、学習への意欲の低さがあると考えられる。</p>	<p>○設問 3 については、1 回の授業や単元ごとに振り返りを行い、生徒に学びを振り返る機会をつくることや、生徒が生活課題をより身近に捉えることができるような問いかけを充実させることが必要である。</p> <p>○設問 5 においては、授業の中で他者の考えを聞き、自らの考えを深める機会をつくることが必要である。コロナ禍で生徒の発言の機会が少なくなったことが理由として考えられるので、フォーム等のアプリや ICT 機器を用いて、生徒が互いに考えを共有する機会を充実していく。また、限られた授業時間数の中で実技や体験活動などを取り入れ、生徒が体験を通して学びを実感できる授業計画を考える必要があるため、疑似体験や ICT 機器の活用を通じて、コロナ禍でも生徒が自分の事として捉えることができる工夫を行っていく。</p>
情報	<p>○設問 1 の評価が低く、授業の振り返りの確保ができていない。</p> <p>○設問 2, 5 の評価が比較的低い。</p>	<p>○振り返りをオンライン等を活用して行う。</p> <p>○オンライン等を活用して、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めることを行っていく。</p>